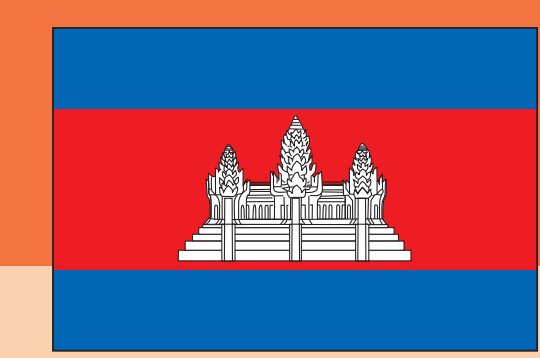




世界の“NOW”を探る現地探訪〈2024年8月取材〉

カンボジアの自然・文化・産業



古くから東南アジアの貿易拠点として栄えたカンボジア。20 世紀後半の内乱や圧政の苦難を経て、カンボジアは新たな繁栄の時代を迎えています。



2024年8月、雨季のトンレサップ湖と周辺に建てられている高床の住居

1

Tônle Sab トンレサップ

東南アジア最大の湖「トンレサップ湖」

雨季の水位が低下している原因とは？

トンレサップ湖は、雨季に増水したメコン川の水が逆流してくるため、面積は乾季の3倍以上、約10,000km²にもなります。しかし近年は、メコン川上流域に建設されたダムや気候変動等の影響により、雨季の水量が減ってきています。



(写真：グッティイメージズ)

▲以前は雨季にはもっと水かさが増し、周辺が水びたしになっていました。2015年7月撮影。



シエムリエブ近郊の高床住居

雨季に備えた伝統的な暮らしの姿



トンレサップ湖



市場に並ぶ新鮮な魚介類



▲高床の住居は、風通しをよくするため、床板の隙間が広いのが特徴で、慣れないうちは下が見えて足がすくむかもしれません！



『新詳高等地図.jp.25～26』『①東南アジア要部』より

カンボジア王国の基本情報

カンボジアの面積は約18.1万km²で日本の半分ほど。

メコン川流域の肥沃な稲作地帯を中心に約1709万の人々が暮らしています。

首都プノンペンの年平均気温は28.7℃。はつきりした雨季と乾季があるサバナ気候(Aw)に分類されています。

シエムリエブ近郊の女性



アンコール=ワットのバイヨン寺院

2

Angkor アンコール

「アンコール遺跡群」の現在

今なお修復が続けられているクメール文化の至宝



アンコール=ワット



アンコール=ワットの回廊の柱に残る墨書

Quiz アンコール=ワットに残る日本人の墨書はいつの時代のもの？

アンコール=ワットでは、日本人の墨書が14カ所発見されています。これらは江戸時代(17世紀前半)に朱印船貿易で渡った人々が残したものです。当時アンコール=ワットは仏教の聖地「祇園精舎」だと考えられており、「祇園精舎図」と題された見取り図も日本人によって描かれています。

省略

「祇園精舎図」(部分)

9 世紀に成立したクメール人の王国アンコール朝は、12 世紀に最盛期を迎え、アンコール遺跡群として世界文化遺産に登録されているアンコール=ワットやアンコール=トムなどの遺跡を残しました。内戦や略奪で破壊された遺跡群は、クメール文化の至宝として国際協力の下、修復が続けられ重要な観光資源にもなっています。



3

Siemréab シエムリエブ

「米」は主要な輸出品の一つ

伝統的な主力産業である農業の課題とは？

稲作の中心地はメコン川流域とトンレサップ湖周辺で、稲作はカンボジアの耕地面積の約8割を占めています。日本とは異なり、種もみを水田にまく直播きが主流で、地域によっては二期作や三期作も行われています。米は重要な輸出品ですが、近年はより生産性を上げ、国際的な価格競争力を高める努力が続けられています。



プノンベン経済特区の正面ゲート



「味の素」の工場

「フットマーク」の縫製工場

4

Phnom Penh プノンベン

高い経済成長率の原動力は「工業」

躍進するカンボジア経済のこれからは？

縫製業を中心とする工業生産の伸びが、カンボジアの経済発展を支えています。1994～2023年の経済成長率は年平均約7%。日本企業もプノンベンなどの経済特区に進出しています。今後は、国内の経済格差の解消が大きな課題とされています。



日本とカンボジアの友好を象徴するメコン川の2つの橋



日本の援助によりメコン川に架けられた「きずな橋」と「つばさ橋」は、日本とカンボジアの友好の象徴として知られています。カンボジアの500リエル紙幣には、この2つの橋と、両国の国旗が掲げられた「きずな橋」の記念碑が描かれています。